

環境

環境方針

持続可能な地球環境の実現のために、気候変動の緩和と適応や環境への負の影響の最小化に向け、環境問題を経営の重要事項と位置付け、事業活動のみならず、職場環境に至るまで、全ての業

務プロセスにおいて、環境に配慮した活動を推進します。また、調達先や協力会社に対しても、環境に配慮した業務遂行を求め、地球環境の改善に努めます。

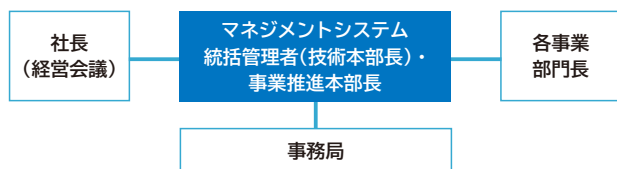
マネジメント体制

持続可能な地球環境問題の対応を実現するには、建物のライフサイクルをとおり、あらゆる局面で環境への負荷を減らしていかなければなりません。そのためには、規制に従うだけでなく、自主的かつ積極的に環境保全の取組みを進めていくことが求められています。

当社は、気候変動対応を経営上の重要課題であると位置付け、気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)に賛同しています。

また、全ての事業部でISO 14001 認証を取得し、各事業部と技術本部、経営層とが連携した環境マネジメントシステム管理体制を構築し、有効性確認と継続的な改善に向けて取組みを進めています。

■環境マネジメント体制図



「TCFD 気候関連への対応」は WEB サイトをご覧ください。
<https://www.snk.co.jp/csr/tcf/>



実績

1. 温室効果ガス排出量削減による地球温暖化防止

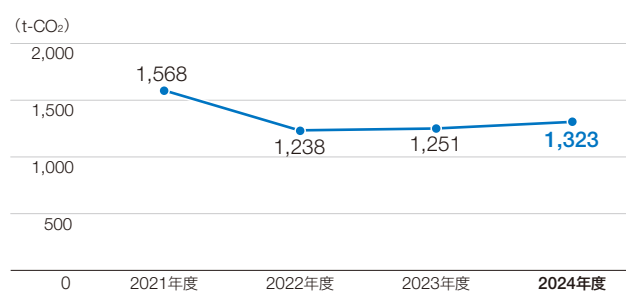
Scope 1 自社施設で使用する燃料消費、社有車、通勤用私有車の使用に伴う直接排出量

2024 年度連結の Scope1 は、1,323 (t-CO₂) となりました。2024 年度は、車種クラスごとに燃費を算出し精度の高い燃料使用量の算出方法に変更し、エコカーの導入効果は認められたものの、

単位：t-CO ₂	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
重油	217	227	237	241
軽油	52	76	101	38
灯油	9	9	7	7
プロパンガス	4	5	6	6
都市ガス	0	0	0	0
ガソリン	1,018	829	900	717
フロン・ハロン漏えい	268	92	0	314
合計	1,568	1,238	1,251	1,323

※ 新たな算出基準にのっとり、SNK レポート 2024 より数値を修正しています

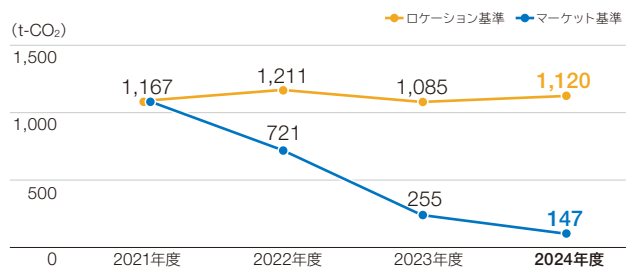
2023 年度より 72 (t-CO₂) 増加しました。排出量の大半は社有車、通勤用私有車によるガソリン消費量であることから、水素燃料電池車などエコカーの導入をさらに進めています。



※ 新たな算出基準にのっとり、SNK レポート 2024 より数値を修正しています

Scope 2 自社施設で購入した電気の使用に伴う間接排出量

2022 年度から、排出量の算定方法を従来のロケーション基準からより精度の高いマーケット基準に見直し、管理対象に拠点現場を新たに加えました。2024 年度連結の Scope2 は、マーケット基準では 147 (t-CO₂) でした。従来のロケーション基準での Scope2 は 1,120 (t-CO₂) となり、2023 年度より 35 (t-CO₂) 増加しました。今後も引き続き自社施設における電気使用量の低減に向け、取り組んでいきます。



※ 新たな算出基準にのっとり、SNK レポート 2024 より数値を修正しています

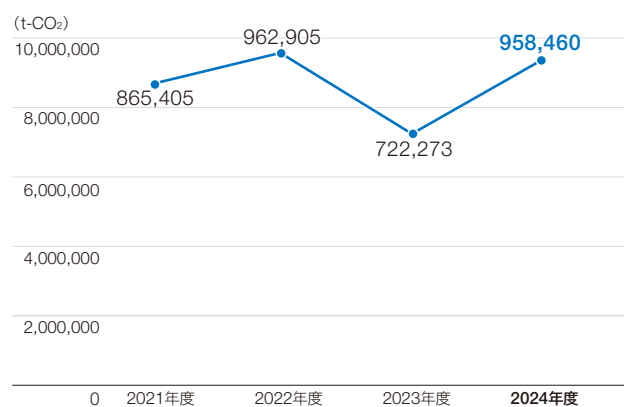
Scope 3 事業者の活動に関連する他社の間接排出量

2024 年度連結の Scope3 は、958,460 (t-CO₂) となり、2023 年度より 236,187 (t-CO₂) 増加しました。Scope3 の排出量は、当社が納入した建築設備の運用が約 85% を占めていることから、引き続き温室効果ガス排出量低減に向けた高効率機器やシステムの

単位：t-CO ₂	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
カテゴリ1：現場施工	119,989	122,509	144,634	139,625
カテゴリ2：自社設備	1,361	2,639	4,186	1,816
カテゴリ3：電気・燃料	473	445	442	393
カテゴリ4：輸送	617	511	684	696
カテゴリ5：廃棄物	548	621	700	1,489
カテゴリ6：出張	313	400	477	462
カテゴリ7：通勤	376	394	446	414
カテゴリ11：設備運用	741,728	835,385	570,703	813,565
合計	865,405	962,905	722,273	958,460

※ Scope 3 の全カテゴリにおいて、新たな算出基準にのっとり、SNK レポート 2024 より数値を修正しています

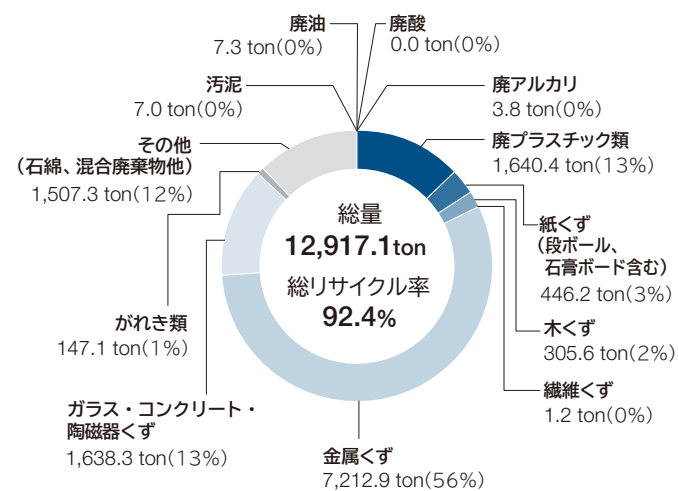
導入提案を行い、AI を利用した空調熱源機器や熱源最適運転制御の技術を充実させていきます。また、お客様設備からの GHG 排出削減に貢献する設計提案を推進していきます。



※ カテゴリ3は、Scope1, 2 に含まれない電気・燃料
※ カテゴリ11(当社が納入した設備運用)は、運用期間を15年として記載
※ カテゴリ8～10、12～15は、当社の事業に該当しない活動
※ 独立第三者の保証をソコテック・サーティフィケーション・ジャパン株式会社より取得しています
※ 新たな算出基準にのっとり、SNK レポート 2024 より数値を修正しています

2. 廃棄物削減・リサイクル化の推進による資源保護

2024 年度の産業廃棄物の総排出量は 12,917.1 (ton)、リサイクル率は 92.4% でした。総排出量は 2023 年度より 6,809 (ton) 減少、リサイクル率はほぼ同等でした。種類別にみると、排出量が金属くずと木くずで全体の約 58% を占めており、リサイクル率はそれぞれ、99.8%、98% となっています。今後も引き続き、リサイクル率の低い廃棄物を有効に回収する方法や排出量を減らす工夫など、地球環境問題の解決に向けて取り組んでいきます。



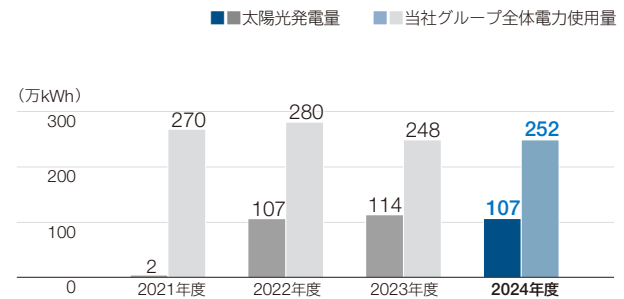
3. 太陽光発電事業の状況

当社のグループ会社である日宝工業株式会社にて太陽光発電所を取得し、2022 年度から売電事業を開始しました。

本発電所は福島県田村市にあり発電出力は約 850kW です。2024 年度の年間発電電力量の実績は約 107 万 kWh で、2023 年度より 7 万 kWh 減少しました。本太陽光発電所での発電量は当社グループ全体で 2024 年度に消費した電力量の約 43% に相当します。発電した全ての電力は、再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法の固定価格買取制度を適用しています。

この再生可能エネルギーの売電は、当社グループの温室効果ガス排出量削減量には含めていません。今後、太陽光発電に限らず、さまざまな手段を通じて再生可能エネルギーの導入を推進することで、気候変動問題に貢献しています。

■当社グループ全体の電力使用量と太陽光発電量



※ 新たな算出基準にのっとり、SNK レポート 2024 より数値を修正しています